

トレッドミル運動負荷心電図		S110		
		担当部署		
トレッドミル		生理		
検査オーダー				
患者同意に関する要求事項		同意書あり		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→生理→トレッドミル運動負荷心電図		
	2			
	3			
	4			
	5			
検査に影響する臨床情報		心電図や心拍数に影響を与える薬剤の内服。(βブロッカーは運動による心拍数上昇を妨げる。ジギタリス製剤はS T部分を低下させ、偽陽性を招く。)		
検査受付時間		8 : 45～17 : 30		
検体採取・搬送・保存				
患者の事前準備事項		1) 運動しやすい服装(上着は検査着に着替えてもらい、靴下は脱ぎ裸足で実施) 2) 検査直前の激しい運動は避ける。		
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし		
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1	人体(心臓)	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
検体搬送条件		ベッド不可		
検体受入不可基準		1) 腰、膝を痛めているなどベルトコンベアーの上を歩いたり走ったりできない患者 2) 検査に同意を得られない患者		
保管検体の保存期間		特記事項なし		
検査結果・報告				

検査室の所在地		病院棟 3階 中央検査部				
測定時間		90分				
生物学的基準範囲		<p>1) P波 I・IIで上向き、高さ 0.25 mV 以下、幅 0.07 秒～0.10 秒</p> <p>2) PQ 間隔 0.12 秒～0.20 秒</p> <p>3) QRS 群 R の大きさは II > I > III の順、高さ 0.6 mV～1.6 mV, Q は R の大きさの 1/4 以下、幅 0.04 秒以内 S の幅 0.06 秒以内 QRS 時間 0.06 秒～0.10 秒</p> <p>4) ST 零線上から、0.1 mV 以内の上昇、0.05 mV 以内の低下</p> <p>5) T波 I・II は常に上向き、高さ 0.2 mV～0.5 mV で P の高さの 2 倍、幅 0.10 秒～0.25 秒</p> <p>6) QT 間隔 0.35 秒～0.44 秒</p>				
臨床判断値		自覚症状の出現(胸痛、息切れ、めまい、冷や汗など)				
基準値					単位	特記事項なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	
パニック値	高値	急性心筋梗塞 心室頻拍 心室細動				
	低値	該当なし				
生理的変動要因		該当なし				
臨床的意義		トレッドミル運動負荷試験とは坂道を登る、急ぎ足で歩くといった日常生活の中で現れる胸痛・動悸・息切れなどの症状を運動によって再現し、その時の心電図と血圧の変化を見て運動中の心臓の状態を調べる検査である。★医師立ち合いで検査を実施する。				